

令和4年3月1日

令和3年度 学校関係者評価報告書

- 1 開催日時 令和4年2月14日（月） 19:00～20:00
- 2 参加者 学校運営協議会委員 14名
- 3 協議内容 評価結果・改善方策等、学校側の説明を聞いてからの意見交換・感想

(A委員)

質問項目5番（生徒：家で宿題や自主学習、読書など合わせて設定時間（1年1.5年2.03年2.5）以上していますか 保護者：お子さんは家で宿題や自主学習、読書などを合わせて設定時間以上していると思いますか 教職員：効果的な宿題の提示や自主学習の在り方など、具体的な指導に努めている）について生徒・保護者と先生方との評価に大きなズレが生じているが、その理由をどのように考えるか。

(中学校)

保護者は家庭での子どもの様子を見て、家庭学習が十分ではないと感じているからではないか。家に帰ってからゲームやスマホなどに時間を費やし、また思春期でもあるため、保護者の言うことを受け入れにくい面もあるのでは。学校としては、家庭で行う学習として、宿題や自主学習などで対応しているが、（家庭学習は）本来はやらされる学習ではなく、自分で考えて取り組むべきものであり、宿題だけで時間を埋めることはできない。

また、学習の意欲化を図るためにも、自身の将来について考えさせ夢や希望を抱かせるための進路学習にも力を入れる必要があると感じている。

(B委員)

現在、個人経営で塾を開いており、子どもたちの1/3程度が通っている。子どものプライバシーに配慮したうえで、学校と情報共有しながら子どもに関わることができれば、個別に対応することもでき、子どもだけでなく学校の力にもなれると考えているので、可能な範囲で協力したい。

中学校の質問項目5は、保護者・子どもと教職員との質問内容にそもそも違いがあり、保護者や子どもには数値や具体的行動を設定して評価させているが、教職員には、文末が「努めている」というあいまいなものであるので、評価に差ができていたのでは。方向性をそろえる内容に改めればよいと思う。通塾生を見ていると、中学校の学年間で同じ自主学習という名でも取組や評価に差がある。片方はノートを埋めていれば評価され、片方はノート一杯文字を埋めていなければ評価されないようである。これでは、手段が目的になっており、量から質への移行が必要だと感じている。

(中学校)

質問項目5は、生徒も保護者も設定した数値目標に到達していないから評価が低

いのだと考える。教員は ICT 機器を活用するなどして課題を提示するなど創意工夫に努めている。ただし、その効果を見とれていないところもある。

(C委員)

D委員は学校で子どもに関わっていただいているが、生徒はどのような悩みを抱えているか、可能な範囲で教えてほしい。

(D委員)

勉強に関する悩み事や困り感よりも心の悩みの方が大きい。勉強に関しては、困ったときは友達や兄や姉に聞いて解消しているようである。心の悩みは、大勢の中で活動するのが苦手だったり人目を気にしてしまったりすることに悩んでいるようである。そんな時には休み時間は教室から出て人の少ないところで過ごしたり、保健室に行ったりすればよいと提案した。

(A委員)

現在、学校に来にくい子どもがいると思うが、今回のアンケートの回収率はどれくらいか。

先ほど、中学校の説明で進路学習に力を入れるという説明があったが教育方針に位置付けるということなのか。

(中学校)

学校に来にくい生徒の家庭だけでなく、それ以外の家庭についても回収できていないところもあり、実際のところ各学年3～4家庭は未回収であると記憶している。

教育方針というよりも、自身が個人的に教職経験を経る中で、子どもは将来の希望が定まらない中で学習に意欲的に取り組むのは難しく、自分の5年先・10年先の未来をイメージさせることが必要だと感じたためそのように発言した。